
学校

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学校

【著者名】

ゆづ

【ZID】

Z4661D

【あらすじ】

いじめに負けたくない。私は意地でも学校に行く。決意をした「私」の物語。

いつからだつたかな。私がいじめられつ子になつたのは。
いや、いじめられつ子なんてそんなカワライイ響きじゃない。

「いじめ」は自分だけは関係ないと思ってた。加害者でも被害者でもなかつたからだ。何か事件に巻き込まれてしまつた人みたいに。私は今親友にいじめられている。友情なんて浅はかなものだ、と思う。高一の時は仲良しだつた。相手がどう思つているかは謎だけど、私は仲が良かつたと思つてる。いつしょにお弁当を食べたり、いつしょに東京へ出て遊んだり。私たちの世代は「裏切り」という世にも卑怯な術が得意な人が多いようだ。

私は今はクラスで完全に無視されている。

ああ、私はなんて不幸なのだろう。私みたいに親友に裏切られるなんてこんなに不幸な人は他にこの世に居るのだろうか?と日記に記す。

夜になればそのままずつと闇にいたいと願つ。自分の部屋と言つ巣の中に一生居ても苦ではない。そして夢の中で親友と楽しく遊んでる。

しかし朝になると胃が腸が、お腹が痛くなつてくる。吐きそうになると、人間の身体は不思議なものだ。私の身体は学校と言つ猛毒に拒絶反応を起こしている。

鉄で出来た重い扉を開けると、私の心の空模様にはかなり矛盾した晴れやかな光が私の身体を覚醒させる。

私は学校へと向う。学校つてなに?何故私は学校へ行くの?私の中で密かな疑問だつた。

学校までの道のりはそう長くはない。

私は最大限に遅いスピードで道を歩いていく。時間に遅刻しないように計算しながら。あまりに強い日の光のせいで肌のメラニンが焼けてるのが解るくらいだつた。

私は学校に着くとまず下駄箱を開ける。上履きを出す。それを履くと階段を2階まで登りガラスの窓から射し込む光が美しい踊り場を通して右に曲がるとそこに彼らの巣がある。私は彼らのターゲット……すなわち生け贅だ。

教室の扉に立つた時 私はその時とても言葉では言い表せないほどに心がどす黒くもやもやと乱れていた。

私は直ぐに階段の来た道を辿り、まだ温かい茶色のローファーを出し、履くと校門掛け走った。陸上部の私は、脚だけは速い。この学校は腐ってる。先生だっていじめも見てみない振りをしている。これからいじめがどんな風にエスカレートするか解らない。私は自分が可哀想でならない。私は自分を守つてやるしかない。そう思つた。

私は、その時涙が出た。ただ単純に自分が可哀想なのと、学校から逃げた自分が許せなかつたからだ。

私は、もう過ちを犯したくないよ。中学校の不登校だったあの頃の私を優しく抱き締めてやりたい。大丈夫だよ、と言つてあげたい。苦労して入らせてくれた両親のためにも、私は、逃げたくない。そう思い、すぐに引き返すこととした。

美しい日の光は、私の身体を通り抜け心にまで浸透していた。

(後書き)

良かつたら感想ください（^〇^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4661d/>

学校

2011年1月4日00時11分発行